


4 参考資料 > (1) よくある質問 Q&A

(1) よくある質問 

Q 1 授業前の準備は、どれくらいの時間が掛かりますか？

A 授業前のグルーピングは、30分から1時間程度で行うことができます。

本研究において作成した、「グルーピングのためのツール」の中の（「グルーピングのためのアセスメントシート」や「PIGシート」）を用いて、グルーピングを行います。グルーピング後に、児童生徒が活動をスムーズに行うことができるような座席配置を検討します。

グルーピングのためのアセスメントシート

PIGシート

- ・記入例を見ながら、簡単に入力できます！
- ・心理検査の項目を転記すると、合計が自動的に計算されます！
- ・配慮の視点が項目化されています！

Q 2 教室などの環境整備で、どのようなことに気を付けるとよいですか？

A 児童生徒が学習に集中して取り組むことができるような環境が大切です。

Point まずは 教室前方の掲示物をできる限り少なくして、学習に関する掲示物や教師の指示に児童生徒が集中できるようにします。

Point 他にも次のような工夫があります。

小学校
 ロールプレイングを行うときの児童の立ち位置をテープ等で示す。
 (幅・・・約 70 cm)

中学校
 学年全体で取り組む場合に、体育館などの会場にグループでの活動を行うスペースをテープ等で示す。

高等学校
 3人組でロールプレイングを行うときに、座席をコンパクトに三角形に配置し、活動するスペースを確保する。

すっきり！






Q 3 児童生徒への配慮は、具体的にはどのようなことをするとよいですか？

A

個や集団の状態に合わせた、それぞれの配慮が考えられます。

個に対して

- ・ 日常行う学習と異なる活動に対して適応することが難しい児童生徒がいることを想定して、個別に授業の場所や内容、メンバー等を事前に知らせておく。
- ・ グループ内に関係性のよい児童生徒を配置する。
- ・ 座席を教室前方のグループに配置する。

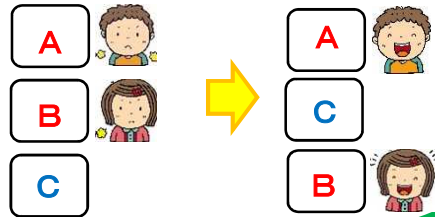
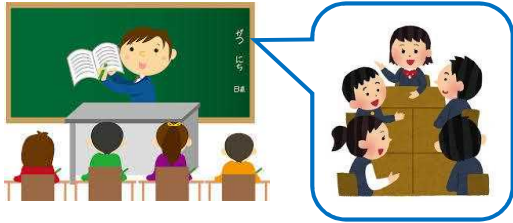
- ・ 日時
- ・ 活動場所
- ・ 学習内容
- ・ 活動メンバー
- ・ 準備物 など



集団に対して

- ・ 学級全体に対して、事前に座席や活動メンバー等を知らせておく。

- ・ 関係性があまりよくない友達がいるグループとグループの間隔を空けて配置する。



Q 4 グループ活動がうまくいかないときは、どうしたらよいですか？

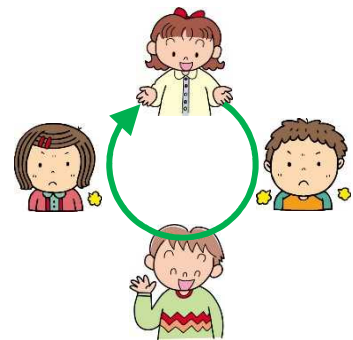
A

段階的に構成人数を増やしたり、グループ内の座席の配置や役割などを意図的に組んだりすることで、スムーズに活動できます。

グループ活動の前にペア活動を入れて2人の関係性を築くことができると、その後に行う4人でのグループ活動をスムーズに行うことができます。普段関わりが少ない児童生徒同士でグループ活動を行う場合も、同様です。



また、リーダー性があり、周りへの気遣いができる児童生徒にグループ活動の進行を任せるとスムーズに活動できます。グループ活動でロールプレイングを行うときは、友達のモデルになることができる児童生徒を台詞等で柔軟な言い回しが求められる役に最初に割り当て、役の順番も指定します。全ての役を交代で体験するため、グループ活動に対して消極的な児童生徒はモデルがあることで活動しやすくなります。

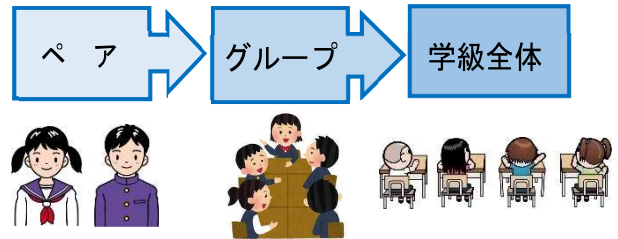


Q 5 全体でのシェアリングがうまくいかないときは、どうしたらよいですか？

A

話し合う人数を少なくしたり、ワークシート等の記述を生かしたりします。

全体の前で自分の考えを表現することは、なかなか難しいものです。意見が出にくいときは、話し合う人数を少なくして、話すことへの抵抗感を減らします。



ワークシート等にした気付きや感想を児童生徒が読むことで発表に代えたり、先生が代読して紹介したりする方法も考えられます。



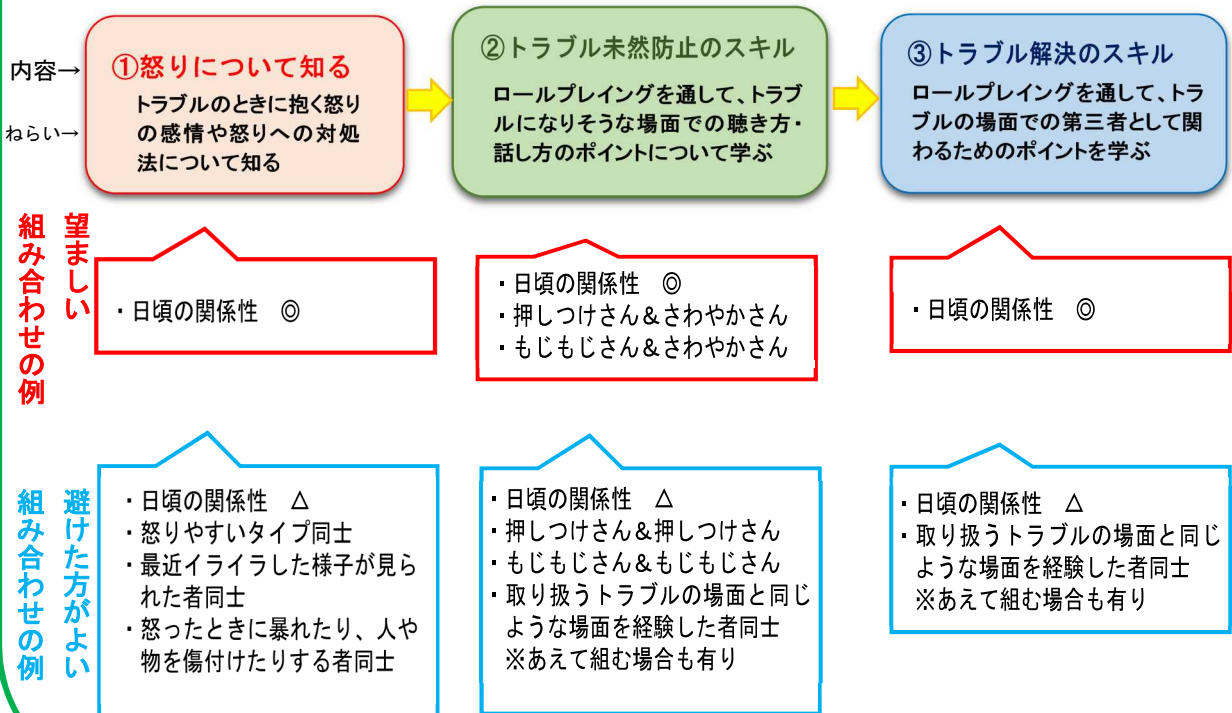
Q 6 グルーピングは、毎回しなければなりませんか？

A

学習の効果を高めるためには、活動プログラムのねらいに沿ったグルーピングが大事です。

【活動プログラムの内容とねらい】

活動プログラムの内容ごとにねらいが異なるため、配慮の視点も変わってきます。



Q 7 学習後の児童生徒の観察で、どのようなところを見るとよいですか？

A

心を扱う学習内容だからこそその見取りが重要です。

この活動プログラムは、以下のように構成されています。

①怒りについて知る

トラブルのときに抱く怒りの感情や怒りへの対処法について知る

②トラブル未然防止のスキル

ロールプレイングを通して、トラブルになりそうな場面での聴き方・話し方のポイントについて学ぶ

③トラブル解決のスキル

ロールプレイングを通して、トラブルの場面での第三者として関わるためのポイントを学ぶ

怒りの感情や児童生徒の身の回りによく起きるトラブルの場面を取り扱うため、授業者が考える以上に児童生徒の精神面に負担が掛かることが予想されます。よって、学習後は以下のような視点で見取り、必要があれば個人的に声掛けをします。

- ・ちょっとしたことでイライラしたり怒ったりする様子が見られる
- ・ロールプレイングでの役を学習後も引きずっている様子が見られる
- ・学習した内容を使ってからかわれたり友達から過度に注意されたりする様子が見られる

Q 8 授業は学級単位、学年単位どちらでする方がよいですか？

A

学級や学年の個や集団の状態に合わせて、柔軟に取り組みましょう。

学級単位で行う場合

学級の児童生徒の個々の実態をよく知る担任の先生だからこそ、活動プログラムのねらいに則した配慮が可能となります。また、授業の前後の変化を観察しやすいということが考えられます。集団活動の基盤となるのは学級であるため、特に小学校では学級集団づくりに効果的です。



学年単位で行う場合

学年の先生やその学年に関係のある先生方全員で取り組むことにより、学級より大きな学年としての集団づくりが可能となります。また、個や集団のアセスメントを通して複数の先生方で意見を交わすことができ、より深い児童生徒理解につながります。



さらに、学年全体で学習することで、トラブル未然防止のスキルやトラブル解決のスキルの共通理解を図ることができ、進級して学級の構成メンバーが替わっても、既習事項として話題にすることができます。

Q 9 学年全体での実践は大変そうですが・・・？

A

複数の先生で関わることで、学年全体の児童生徒理解が深まります。

活動前

授業の約 1 週間前に、「グルーピングのためのアセスメントシート」や「P I Gシート」を持ち寄りながら学年の先生や関係の深い先生と打合せをします。シートには心理検査等の結果や配慮の視点に沿ったコメントを書く欄があるため、1 時間程度グルーピングの話合いをすることで充実したアセスメントができます。グルーピングは、学級内の人間関係づくりという観点から、学級単位であることをお勧めします。



活動に当たって

体育館や多目的室など、ペアやグループでの活動ができるスペースを留意します。スムーズに活動に入ることができるようにするため、広がったときの場所をテープ等で印をつけておくとよいでしょう。

【用意するもの】

先生

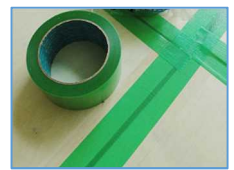
- ・ホワイトボード 2～3 枚
- ・電子黒板又はプロジェクタ
- ・マイク 2～3 本

※ワークシート等は事前に配布しておく

児童生徒

- ・筆記用具
- ・バインダー

(その場で記入するため)



活動後

児童生徒の「振り返りシート」や「グループ活動アンケート」を参考に、「P I Gシート」を使って次回のグルーピングに備えてアセスメントをします。複数の先生でアセスメントを行うことで、より配慮したグルーピングが可能になります。



※「グルーピングのためのアセスメントシート」や「P I Gシート」は、児童生徒の状態を可視化しているため、活動プログラム実践以外の場面でも児童生徒理解の目的で活用できます。